

# 特集 学生の研究活動報告—国内学会大会・国際会議参加記 27

## ASEAN グローバルプログラム に参加して

石川 貴章  
Takaaki ISHIKAWA  
機械システム工学科 2年

### 1. はじめに

2017年8月29日から9月7日にかけて、ベトナムのハノイおよびその周辺、シンガポール中心部で企業訪問や大学見学、PBLを含むASEANグローバルプログラムに参加した。具体的なプログラムの日程を表1に示す。本稿ではプログラムに参加した目的、研修内容とそこで学んだこと、ASEAN諸国と日本の比較、プログラム全体を通して得たものとそれを踏まえた今後の目標について記す。

表1 プログラムの日程

8月29日(火)	出国, ベトナム ハノイへ
8月30日(水)	現地企業訪問
8月31日(木)	現地大学生とのPBL
9月1日(金)	現地大学生とのPBL, 龍谷大学OBとの交流会
9月3日(日)	ハノイ発, シンガポール着
9月4日(月)	南洋理工大学見学
9月5日(火)	トークセッション, ビジネスパーソンとの交流会
9月6日(水)	シンガポール発
9月7日(木)	帰国

### 2. 参加目的

私は、これまで海外経験がなく日本でいるだけでは、これからのグローバルな社会で働くうえで必要となる英語力やコミュニケーション能力を習得できないと考え、今回のプログラムに参加した。私自身、車の開発に携わる仕事に就きたいと考え、本学の機械システム工学科に入学した経緯があり、昨今の自動車開発では、日本企業の海外進出も稀ではな

く、そのような企業で働くためには、世界の情勢も見ておきたいと思い、今回のプログラム参加に至った。

### 3. プログラムの目的と研修内容

海外経験を持ち、考え方や、ものの見方(視野)を広げるため、表1で示したように、各国の企業(現地企業あるいは日系企業)および大学の訪問・学生間交流をした。

### 4. 学習目標

このプログラムでは次のような目標、計画を立てた。

- ・グローバル社会において産業がどのように進展しているかを知る。
- ・グローバルに進展する社会・産業に関わっている日本企業、日本人技術者が果たしている役割を理解する。
- ・言語や文化が異なる様々な国や地域の人々とコミュニケーションをとる。
- ・異文化に対する理解を深めることにより、海外に対する意識を高める。

日本で生活しているだけでは知らない、見たことがないこと(言葉の違い、文化の違い、考え方の違いなど)を体験し、思った通りにいかないこと、予想外のこと、不便を強いられることなどを経験して、

1. 未知の世界に飛び込める行動力
2. 最後までやり抜くタフネスさ
3. 自分の頭で考え、課題を解決する能力を向上することを目標とした。

### 5. 現地企業訪問

私は、今回のプログラムでの経験で特に現地企業訪問について述べたいと思う。私たちが訪問した企業はRikkei SoftとNTQの2社である。この2社はどちらもソフトウェアの開発を行っているベトナムのIT企業であり、同じビルにオフィスがあっ

た。私たちは、この企業訪問があると聞いたので、事前にこの2社について調べ、質問を何点か考えて行った。まず、私たちが訪れたのは NTQ である。NTQ とは、NHA TOI QUAN の略で、ベトナム語で「家族」という意味である。その会社名の通り、福利厚生もしっかりしており、社内旅行に社員の家族も連れてきて、交流できる仕組みがあり、そこは日本の企業とは違ってすごいなと感じた。そう言ったこともあり、離職率がとても高いベトナムの中でも他の企業を圧倒して離職率が低い。また、この企業のカスタマーは日本人であり、なぜ日本人にこだわるのかというと、設立者の5人が FUJIFILM の案件に携わっていたからだそうで、そのため日本に製品を売り出しているというこだわりがある。たまたま、私たちが訪問したとき日本の企業の方がこの企業と合同でプロジェクトを行っており、その方によると、ベトナムの旧正月は2月なので日本の正月の時に滞る仕事をベトナムでやってくれ、その点でもベトナムに進出するメリットがある。とおっしゃっていた。また、私はこの企業訪問をする前までベトナムは人件費が安いので、多少の品質低下は仕方ないと思っていたが、そんなことはなく、安い製品だから良いのではなく、日本のお客は品質を求めているから高品質のものを売り出すのだ。と言っていたのがとても印象的で、しっかりと日本人のことを調べ考えた上で商品開発をしているのだなと思います。次に、私たちは Rikkei Soft を訪れた。この企業名の由来は設立者の出身大学である、立命館と慶応の文字を取ってこの名前になったという。ここでは、主に社員の方々との交流会をした。こちらの企業も社員みんなが友達のような感じで日本の縦社会みたいなものは感じられなかった。どんな質問にも丁寧に答えてくれ、とてもすばらしい企業だと感じた。また、どちらの企業にも言えるのだが、皆私服で仕事をしていた。そのわけを聞く

と、堅くなりすぎないようにしているのだそう。私はこれによって、柔軟な考え方で素晴らしいアイデアが生まれ出されているのだと思った。

## 6. 研修を終えて

私はこの研修期間で様々なことを学んだ。その中でも特に、現地大学生とコミュニケーションをとるときが一番大変だった。私が習得している英語能力ではとても、現地学生とは話し合えなかった。そのため動きで表現したり、文字にして伝えるようにした。このことから、私がやってきた英語では世界には通用しないんだということを感じさせられた。また、現地企業に訪問した際には、正直言うと ASEAN 諸国は日本よりも劣っていると思っていたので、その発展具合にとっても驚かされた。

## 7. おわりに

今回このプログラムに参加する目的として「世界の情勢をみる。」ということであったが、ベトナムでは、まだ車よりもバイクの方が走っていて市場にするのはまだにせよ、シンガポールでは走っている車を見ればほとんど高級車で市場にするには十分すぎるほどになっていて、当初予想していたよりもはるかに経済発展していてとても驚いている。また、シンガポールはこれからも発展し続けるであろう。日本のバブル崩壊を見ているので、成長を抑えながら経済成長しているのだという話を聞いたときにはとても賢い国家だなと思った。これらを通して、私はやはり生きている範囲が狭いと感じた。もっと、視野を広くし世界を見て生きていきたいと思う。

今回の研修において社会を経験する貴重な機会を与えてくださった Takagi Vietnam, Rikkei Soft, NTQ, ハノイ工業大学, 南洋理工大学, ビジネスパーソン, 龍谷大学 OB の皆様に心よりお礼申し上げます。